

東部支部長就任挨拶

この度、東部支部長を拝命しました東京大学の鈴木英之です。

大学院博士課程を修了して以来、今では珍しくなりましたが、そのまま大学に残り研究教育に携わってきました。研究分野は海洋構造物の構造システムの挙動解析やコンセプト開発で、最初はライザーなどの水中線状構造物の動的挙動解析法の開発、石油天然ガス開発用の浮体構造物の研究で、その後、海洋空間利用のための超大型浮体の研究に取り組み、ナショナルプロジェクトとして実施されたメガフロート開発にも参加させていただきました。その後は海洋再生可能エネルギーの活用注目し、特に浮体式洋上風車の開発に取り組み、福島沖の浮体式洋上ウインドファームの実証研究にも参加し、現在はさらなる低コスト化を目指した実証研究に取り組んでいます。浮体式洋上風車に関しては、基準や規格作りにも協力し、IECにおける浮体式洋上風車の規格作りやIEAの下での浮体式洋上風車の連成応答解析法の国際比較研究にも参加してまいりました。

最近国際会議や国際的な集まりに出て感じることは、東アジア地区を中心に各国の技術レベルが向上し、発表される論文数も格段に増え、質的にも向上してきていることです。日本はこれまで技術水準の高さや製品の品質の良さで世界で認められてきており、この背景となる学術的な水準の高さについても評価を得てきましたが、今後は日本の位置付けが相対的に緩やかに低下することが懸念されます。

世界において、日本の発言や考えが尊重され、日本にふさわしい位置づけを確保し続けるためには、諸外国に負けない高品質の製品を作るとともに、世界をリードするような新しい発想や新しい取り組みを日本から発信してゆくことが必要と思います。わたしが最近取り組んでいる浮体式洋上風車の研究開発は、ヨーロッパに少し遅れて開始されましたが技術的には劣ってなかったと思いますが、あまり注目されてこなかったという印象を持っていました。しかし、東日本大震災以降浮体式洋上風車の実証実験を急速に進め、現在では注目される存在の一つとなっています。世界が日本の動向に注目し、日本の発言や考えに注意を払っています。世界に先駆けて世界をリードする形で技術開発を進めることは非常に重要で、新しいコンセプトに基づいて、技術開発を進め実現する過程で得られるものの大きさを強く感じています。

日本船舶海洋工学会の目的は、「船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ること」となっています。今世紀の人類社会の在り方などに照らして、船舶海洋工学の担当する分野から社会に対してどのような貢献をしなければならないのか、学会から新しい提案を行ってゆくことが必要と思います。また、日本が世界をリードしてゆく上でもっとも重要な人材の育成については、かつて企業や大学の壁を越えて若手が協業する修練の場がありましたが、そのような機能が非常に弱くなっていることが懸念されます。各企業が少数精鋭で仕事を行っているなか、外の空気に触れる機会は減っています。学会に設置される研究委員会などを活用して、このような機能を充実することが必要と思います。各社共通の課題で、造船業界全体がステップアップできるようなテーマを設定して、協業できる取り組みが重要と思います。若手技術者の人脈形成や情報交換の支援にもなります。

日本船舶海洋工学会全体、東部支部の会員の役に立つ活動を充実したいと思っています。すでに実施している既存の活動に加えて、支部会員の皆様からのご意見や要望も取り入れて学会の活動行ってゆきたいと考えておりますので、ご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

